

## 【参考資料】 スクミリングガイについて

佐賀県農業技術防除センター

### 1. スクミリングガイの生態（図1）

- ・南米原産の淡水性巻貝。
- ・1981年に養殖を目的に人為的に日本へ導入。
- ・その後野生化し、本県では1985年に本貝による水稻などへの被害を確認。
- ・成貝は汚水にも強く、用排水路やクレークで旺盛に増殖しつつ移動分散する。
- ・鮮紅色の卵塊を雑草や水路の壁に産む。
- ・落水後の水田や用水路で越冬する。



図1 スクミリングガイの生態

### 2. 水稻への被害（図2）

- ・移植直後から約2週間位までの稲苗が摂食される。
- ・食害の著しい水田では欠株が生じ、補植や植え替えが必要になる。
- ・浸冠水を受けやすい水田や、水深の深い水田で被害が多発する。

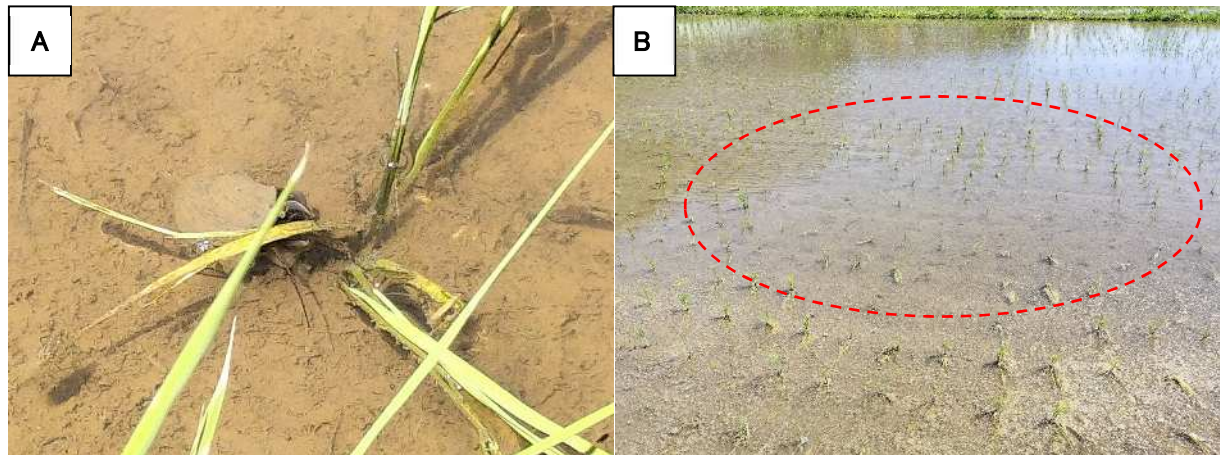


図2 早期水稻圃場でイネを摂食するスクミリングガイ（A）および食害による欠株（B、破線部）（2024年5月17日撮影）

### 3. 防除対策（本田移植前後）

#### 1) 田植前まで

- ①排水口には塩化ビニール管などを用い、排水路の水面上に出口がくるようにし、貝の水田への侵入を防止する。
- ②揚水ポンプ等からの侵入を防ぐため、吐出口などに網をつける。
- ③降雨などで浸水しやすいような水田では、水路側の畦を高くして侵入防止に努める。
- ④本貝の侵入被害が見込まれる水田では中・成苗を移植し、可能であれば苗の移植時期を早進化し、被害回避に努める。

2) 田植後から初秋にかけて

- ①すでに本貝が侵入している水田では、田植後1 cm程度の浅水にする。
- ②浅水管理を容易にするため作溝をする。また、溝に集まった本貝を捕獲する。
- ③薬剤による防除

IRAC コード	薬 剤 名 (成分名)	備 考
	ジャンボたにしくん (メタアルデヒド)	
	スクミノン (メタアルデヒド)	
	スクミンベイト3 (磷酸第二鉄)	・ JAS、減農薬栽培でも使用可能
14	パダン粒剤4 (カルタップ)	
	メタレックスRG粒剤 (メタアルデヒド)	・ 湛水散布 ・ 吹き寄せを防止するために強風時の使用は避ける

- ④田植後に水田内の貝が多い時は捕獲する。また、食害が多い時は補植する。
- ⑤田植後は見回りをし、水田内の貝が多い時は捕獲する。特に、浸冠水後は貝の侵入が見られるので、捕獲する。

4. その他参考資料

[スクミリングガイ \(ジャンボタニシ\) の被害防止対策について：農林水産省 \(maff.go.jp\)](http://maff.go.jp)

URL：<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/siryousu2/sukumi/sukumi.html>